

かお・人インタビュー

2013年 9月27日(金)

会長 杉山秀彦氏に聞く

会長インタビュー

九州建設専門工事業団体連合会



九州建設専門工事業団体連合会長や九州篤土木業連合会などの会長として自ら業界のイメージアップや改革に取り組むエネルギーギッシュで柔和な(株)スギヤマの杉山秀彦会長に専門工事業界の現状や課題、自社の取り組みなどについて聞いた。

◎業界の現状について

現状は、下請け専門で現場に従事する人たちの社会的地位や賃金などが未だ低い状況にあり、これらを改善すべき組織強化を図りながら前に進んでいきたいと強く思っています。その打開策として、今は任意団体である建専連九州支部

(28業種・20団体)の組織を強化し、最前線でインフラのために働く人たちの地位向上を図るために、一般社団法人という法人格を取得するために動いています。これらを早期実現させて業界のイメージアップを図り、現場に従事する作業員の社会的地位と仕事に誇りを持ってもらえるようにしたいと考えています。それと専門業者が災害協定を直接発注者と結べるように動きたいとも思っています。

◎課題に対する取り組みは

下請けからみた賃金は、各業種で働く人達のなかで低賃金であります、その労務単価では、各ゼネコンに対し各県毎での単価改正をお願いしているところでもあり、また、労務単価や社会保険未加入

業者についても九州地方整備局や各県など各関係機関と協議を行っています。ちなみに、わが社では、月給制を取り入れ40歳平均で年収500万円を目標にしております。福利厚生充実などで頑張っているところでもあります。それと人員確保の課題もあります、今は高校や大学での授業のカリキュラムが今の時代に合っていないのではないかと感じています、専門工事業の体験を是非授業に取り入れてもらえればとの思いがありますが、その前に業界全体のイメージアップと社会的地位の確保を目指すために業界の改善に向け努力を惜しまない信念で前に進んでいきたいと思えます。組織強化などこれらを実現するためには関係各位や会員の協力が必要になりますのでよろしくお願ひしたい気持ちです。

◎仕事での思い出は

私どもの社員が極地研究所の職員として、南極の昭和基地にある建物のリニューアル作業に延べ4回の派遣参加をしました。これが世界に飛び出した我が社の技術でもあり、感慨深いものがありました、これに参加した社員が持ち帰った南極の氷で飲んだ焼酎に感激した思い出もあります。また、専門工事業の作業を授業に取り入れるなど先進的な教育を実施されている長崎県立鹿町工業高校に仲間と協力して手摺先行足場システム一式を寄贈し、先生や生徒に喜ばれたことも若者育成と地域貢献

に寄与できた良い思い出となっています。

◎公共事業に対する考えは

公共事業は絶対に必要です、産業発展に寄与してきた事業でもあり、今では特に、震災後、水害や地震などコンクリートが人命・財産を救うことが証明されました、しかし無駄と言われるものもあり、必要性を明確化するべきだと考えます、かつてローマ帝国が栄えたのは道路をつくる技術力や土木の技術があったからだと言われてい

◎趣味・好きな言葉は

県内にある近くの山歩きを楽しんでいます、好きな言葉は、至誠に悖るなかれ、気力に欠くるなかれ、努力に憾むなかれ。



経歴など

昭和20年生まれの68歳、佐賀高校から日本大学建築部へ進学、卒業後に東京のゼネコンに入社、昭和45年から(株)杉山に入社し、昭和54年組織変更した(株)杉山組社長に就任。平成2年、(株)スギヤマに社名変更し、同年に会長職に就き現在に至る。他要職も多い。